



## 概要

---

- [概要, 1 ページ](#)
- [展開, 1 ページ](#)
- [IM and Presence サービスでの Microsoft Outlook の予定表ステータス, 2 ページ](#)
- [制約事項と制限, 3 ページ](#)

## 概要

Microsoft Outlook 予定表と IM and Presence サービスの統合では、Microsoft Outlook の予定表/会議のステータスを IM and Presence サービス サーバの可用性ステータスに組み込むことができます。この統合は、IM and Presence サービスをオンプレミス Microsoft Exchange Server またはホスト型 Office 365 サーバに接続することによって実現できます。

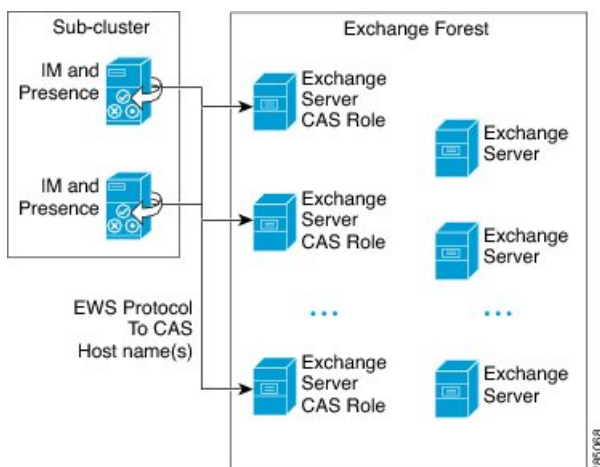
## 展開

### Exchange Web サービス

Exchange Web サービス (EWS) では、HTTP を介して Microsoft Exchange のメールボックスおよびコンテンツとのやりとりを行えます。EWS は、Microsoft Outlook を介して利用できるデータと

ほぼ同じデータにアクセスできます。EWSは、クライアントコンピュータからサーバにいくつかの責任を移動します。

図 1: EWS を介した IM and Presence サービスとの Microsoft Exchange 統合



## IM and Presence サービスでの Microsoft Outlook の予定表ステータス

Microsoft Exchange または Office 365 経由の Microsoft Outlook と IM and Presence サービスの統合では、Microsoft Outlook の予定表/会議のステータスを IM and Presence サービスの可用性ステータスに組み込むことができます。次の表は、到達可能性のマッピングと、IM and Presence サービスにおいて会議ステータス（Microsoft Outlook 予定表に表示される）と IM and Presence サービスのユーザのアベイラビリティステータスがどのように対応付けられるかを示しています。

表 1: 予定表ステータスに基づく集約されたアベイラビリティステータス

Microsoft Outlook のステータス	IM and Presence サービスのステータス
空き時間/仮の予定	応対可
ビジー	会議中
勤務時間外 <sup>1</sup>	退席中
退席中 <sup>2</sup>	退席中

<sup>1</sup> Microsoft Outlook 2007 および Microsoft Outlook 2010 のデスクトップクライアント。

<sup>2</sup> Microsoft Outlook Web Access (OWA) 2010。

## 制約事項と制限

次に示すのは、IM and Presence サービスと Microsoft Exchange の統合に関する制限事項です。

- 1 台以上の EWS サーバを追加、更新、または削除できます（上限はありません）。ただし、[プレゼンス ゲートウェイ (Presence Gateway) ] ウィンドウの [トラブルシュータ (Troubleshooter) ] は、設定した最初の 10 台までの EWS サーバのステータスのみを検証し、レポートするよう作られています。
- IM and Presence サービスの本リリースでは、Exchange の自動検出サービスに対応していません。自動検出サービスでは、ロードバランシング機構がすでにクライアント アクセス サーバ (CAS) またはサーバに配置されていることが前提となっています。
- Exchange Server と Office 365 サーバの両方をプレゼンス ゲートウェイとして設定することはできません。IM and Presence サービス展開と両方のタイプの Microsoft 展開を統合する場合は、Exchange Server をプレゼンス ゲートウェイとして設定し、Microsoft 展開から Microsoft Exchange と Office 365 間の統合を設定する必要があります。

